

富士山の曼荼羅Ⅲ

富士山表口の信仰空間

令和3年(2021)1月1日(金)～令和3年(2021)1月31日(日)

午前9時～午後5時

(最終入場は午後4時30分) 休館日：1月19日(火)

2019年度住友財団文化財維持修復事業により、江戸時代後期以来の修復を完了した富士参詣曼荼羅(天満山松栄寺本)の原本作品を展示紹介いたします。

関連イベント

令和3年(2021)1月17日(日)

◆ 14時～15時(受付開始13時半～)13時整理券配布、定員30名

講師：阿部美香(昭和女子大学非常勤講師)

論題：「富士山絵伝」の絵解き解説(仮題)



Mandala III of Mount Fuji

富士山の曼荼羅III

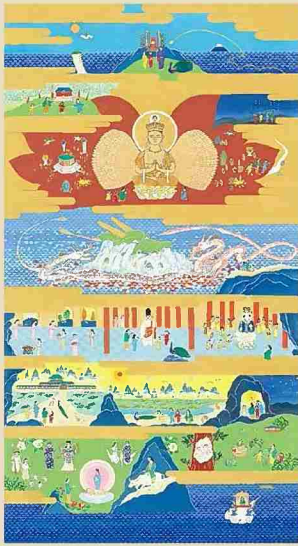


▲富士参詣曼荼羅（天満山松栄寺本）

参詣曼荼羅とは、主として16～17世紀にかけて、霊場（寺院・神社）への参詣を目的として制作された宗教的な案内絵図のことです。17世紀以降につくられた作品を含めて、全国40箇所以上の寺社におよそ150点ほどが現存しています。

静岡県の富士山信仰は、主要街道である東海道が東西を横断していることが大きく影響しています。東海道を利用し、特に東海地方から近畿地方を中心とする西国方面から、道者と呼ばれた富士山への参詣者が数多く訪れました。東海道を利用した道者は、基本的には富士山表口（大宮・村山口登山道）から富士山へと参詣をしていました。こうした点を背景に、富士参詣曼荼羅の各作品が誕生しています。

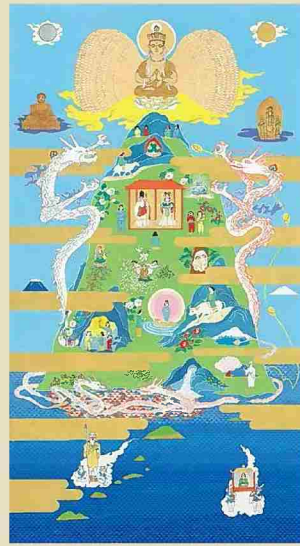
富士山表口の信仰空間



▲富士山絵伝Ⅱ
（神の住まう国）



▲富士山絵伝Ⅲ
（美しき山を目指すもの）



▲富士山絵伝Ⅰ
（はじめは火と水の力）

紹介作品

今回の展示会では、昨年度に住友財団文化財修復助成事業によって、江戸時代後期以来の修復を完了した富士参詣曼荼羅（天満山松栄寺本）の原本作品を展示紹介いたします。また文化財修復の過程についても紹介し、あわせて修理前に作成した同図の高解像度レプリカ作品も並べて展示いたします。

さらに富士山信仰の世界を画面の中に散りばめた新作の「富士山絵伝」三幅を初公開し、その他富士山表口の信仰空間を指し示す作品を紹介いたします。

- ・「富士参詣曼荼羅」（天満山松栄寺所蔵、富士山かぐや姫ミュージアム寄託）
- ・「富士山絵伝」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（中村芳楽氏所蔵）
- ・「感黄浅間大菩薩像」（天満山松栄寺所蔵、富士山かぐや姫ミュージアム寄託）



Photo: Hiroyuki Hira



静岡県富士山 世界遺産センター

〒418-0067 静岡県富士宮市宮町5-12
TEL: 0544-21-3776 FAX: 0544-23-6800
<https://mtfuji-whc.jp>

- JR 身延線富士宮駅から徒歩8分
- 新東名高速道路新富士ICから約10分
- 東名高速道路富士ICから約15分

